

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第323回

リチャード・バック

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年9月22日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

A professional writer is an amateur who didn't quit.

プロの作家とは、書くことを
やめなかったアマチュアのことである。

リチャード・バックは、アメリカ合衆国イリノイ州生まれの飛行家、作家。飛行機に関するルポルタージュ風の記事を書いていたが、1970年に『かもめのジョナサン』を発表した。当初はほとんど評判にならなかったが、1972年に突如ベストセラーのトップに躍り出た。各国語に翻訳され、日本でもロングセラーとなっている。

Column

今回の言葉を知った時に『この言葉に勇気をもらえる人が多いだろう』と感じました。ほとんどの人が到達できない“プロ”の領域ですが、ほとんどの人が無理だと諦めているだけで実は思っているほど難しいことではないという気がしています。私の中でのプロのイメージのひとつとして『ほとんどの人が考えない（やらない）ところを追求（実践）する』という部分です。それは時間をかけるということに限ったことではないと私は考えています。私自身もプロと呼ばれる立場になった経験がありますが、他の仲間と同じように練習してただけで正直言ってほとんどの人が想像するような努力をしたわけではありません。また、飛び抜けた才能の持ち主でもありません。ただ、自分の中での“達成への最短ルート”を計画しました。そこに多くの人のサポートがあって実現したわけです。運と言ってしまえばそれまでですが、自分の計画が功を奏した部分もあって思っています。

先に述べた“ほとんどの人”という括りの中に自分も当てはまると考えれば追求の仕方も変わってくるはずです。簡単な言い方をすれば最初に思いつくことはほとんどの人が思いつくということです。ということは“これは思わない（しない）だろうな”ということを考えることが重要です。ではどうすればいいのか。『情報収集』です。正智深谷高校の生徒のみなさんは全員タブレット端末を持っていて、今や全ての答えが詰まっていると言っても過言ではないインターネットを駆使して様々な情報について検索することができます。世の中のどんな人がどんなジャンルで成功していて、そこに至るまでにどんなことをしてきたのか。ひとつの“成功事例”を現代では数分の時間で知ることや、シミュレーションすることができます。そういう意味では現代に生き、今後の世界を担っていくみなさんはラッキーだと思います。自身の成長のためにあらゆることを考え、実行しながら自身の求める幸せに向かっていきたいものですね。